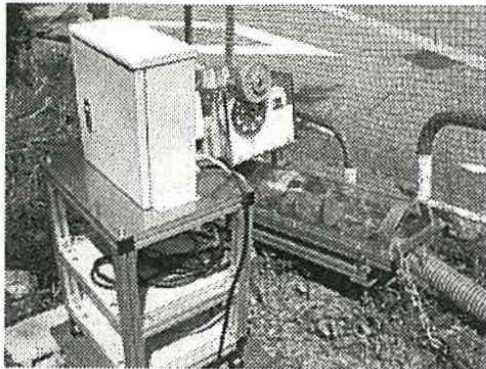


斜面の崩壊監視システム

電源に小水力発電活用

ゼンマイメーカーの東洋ゼンマイ(富山県黒部市、長谷川光一社長)と検査業務のアイペック(富山市、吉岡裕一社長)は、土砂崩れなどの斜面崩壊対策で小水力発電を活用した監視システムを開発する。電力供給が難しい山間部での稼働を想定し、監視データを無線送信する。1〜2年後の

東洋ゼンマイとアイペック 実用化へ実証実験



実用化を目指す。14日に黒部市の宇奈月温泉で実証実験する。観

光振興を進めるでんき宇奈月プロジェクト実行委員会が一部費用を負担し、全体をとりまとめる。同委員会は黒部市や地元企業、大学などで構成する。東洋ゼンマイは発電部

分を担当。エネルギーを蓄積できるゼンマイの特性を生かし、安定的な電力を供給する。センサー

が開発する「超節水ゼンマイ発電対応斜面崩壊監視システム」は、小さな用水路や緩やかな河川でらせん水車を回して発電

ゼンマイの特性を生かし電力を安定供給する(試作機)アイペックが担当する。

掘点などにデータを送信する。データの分析もアイペックが担当する。